

# 連合体組織つくる

## 水保 署名運動の二グループ

水保病患者救済などを訴えて署名運動をしている水保市民会善対策協議会（池松信夫発起人代表、八人）と、自民党支部長植田昌文氏ら各団体十六人のグループ

が、「水保を明るくする市民連絡協議会」という連合体組織をつくり、患者救済などを国、県などに働きかける。両者は先月下旬から署名運動を

していたが、公害対策協が一万四千人、自民党などが一万三千人の署名を集めている。公害対策協の運動趣旨の中には「チツソは誠意をもって早期解決に努力するよう関係方面に働きかける」という項目があり、両者の運動趣旨は、多少のニュアンスの違いはあったが、早期円満解決という点では一致していた。「二つの署名運動が

あるのは、市民に奇異な印象を与える」と浮池市長らが、連合で運動するよう助言していた。

今後の日程としては、浮池市長の呼びかけで新認定患者との話し合いも計画されている。話し合いは、新認定患者から自民党などに申し入れがあり、自民党などは市役所で、患者はチツソ正門前のすわり込み現場を希望し、折り合わず実現していない。

またチツソに対しても連合で話し合いを申し入れることにしている。十四日には大会を開く。

これらの動きに対して、患者側は「チツソの企業責任に触れない署名運動には賛成しかねる」と反発し続けている。